

令和7年度 研究の概要

E グループ
明豊中学校 下 嵩人

つながりを意識することができる生徒の育成

1 研究のねらい

本校1年生は、数学に苦手意識をもつ生徒が多くいる。加えて、小学校の学習内容が定着できていないようにも感じる。4月に取ったアンケートでは、グループ学習を行う授業については、楽しいと感じている生徒が多くいた。また、クラスメイトから教えてもらうことが、学習内容について、理解を深める上で有効だと回答している生徒もいた。学習内容を定着させていくには、これまでの学習内容とのつながりを意識していく必要があると感じている。また、他者とのつながりも大切にしながら実践を行っていくことが、生徒の学習内容への理解につながると考えた。

今井(2024)は「ひとつひとつのことばを世界に(自分の経験に)『接地』させ(ひもづける)、そこから自分で推論して知識を拡張していく」と述べている。このことから、私は、新たな問題と既習事項をつなげて(ひもづけて)考えて、自分で推論して知識を拡張することで、学習内容の理解につながるのではないかと考えた。そして、学びに見通しをもたせることで、既習事項と新たな問題とのつながりを意識しやすくし、振り返りながら学びをつなげることで、次回以降の学習とのつながりも意識できるようになると考えた。

本研究での、つながりを意識することができる生徒とは、「学びに見通しをもち、新たな問題に対して、共通点や相違点を見出し、学習内容を理解できる生徒」である。このような生徒を育てるために、まずは問題を解決するために必要な知識・技能の習得を行う。そして、学びに見通しをもち、新たな問題と既習事項の共通点、相違点を考えさせる。この活動を繰り返すことで、つながりを意識できるようにしていきたいと考える。

2 研究の内容

(1) 研究の手立て

【手立て①】学びに見通しをもたせ、既習事項とのつながりに気付く場面

授業の最初に、本授業で達成してほしい新たな問題(解決してほしい課題)を提示する。その後、新たな問題と既習事項との共通点と相違点を考えさせる。考えさせる際には、「式の形」や「計算の方法」などの視点を与えて考えさせる。次に、新たな問題を解くためには、どんな知識・技能が必要なのかを考えさせる。見付けた共通点や相違点、どんな知識・技能が必要なのかどうかを、ペアやグループ学習を用いて、考えを伝え合う場面を設けることで既習事項とのつながりに気付くことができるようにする。

生徒から出てきた、問題を解くために必要な知識・技能をまとめたものは、ロイロノートを使って生徒全員に共有し、学びがつながるようにしていく。その後、獲得した知識・技能を生かして、問いに取り組ませていく。

【手立て②】振り返りながら学びをつなげる場面

「①気付いたこと」「②面白かったこと」「③疑問に思ったこと」の3項目を与えてその中から選んで振り返りを記述させる。また、「今日の授業の中で学んだことで、今後の学習で発展できそうな内容がありますか」と発問し、生徒に発展させた問題を作らせてまとめさせる。まとめたものはロイロノートで提出させ、次時の授業で紹介し、生徒全員で共有させることで、本授業と今後の授業のつながりを意識できるようにする。

(2) 検証方法

手立て①については、生徒が新たな問題に対して、共通点と相違点を自分で考えることができたかを、学習プリントの記述内容から検証する。どんな知識・技能が分かれば新たな問題を解くことができるかも記述させ、同様に検証していく。そして、学びに見通しをもつことができたかどうかは、単元末にアンケートを実施し、その記述内容から検証していく。

手立て②については、選択した項目についての記述内容と、「本授業の中で学んだことで、今後の授業で発展できそうな内容」について考えた内容を記述から検証していく。

3 授業展開例（中学1年生 1章 正の数・負の数 2時間で完了）

本時の課題（新たな問題）

○ $3^3 - \{(-2)^2 - (9-14) \times 2\}$ を計算できる。

授業が終わるまでに達成してほしい
新たな問題を提示する

○新たな問題とこれまでに取り組んだ問題の「共通点（似ている点）」と「相違点（ちがう点）」は何かありますか。まとめてみましょう。『式の形』『計算法』に注目して考えてみましょう。



共通点（似ている点）は、減法や乗法があります。



相違点（違う点）は、数字の右上に数字があります。「○²」
また、減法と乗法が混じっている式です。
「{ }」が新たにあります。



ペア学習やグループ学習を行い、考えを伝え合う。その後、ロイロノートで共有する。

○新しい問題を解くために、どんな知識や技能があれば解くことができますか。



（個人で考えた後に、クラスメイトに伝え合う時間を設ける）

「○²」の計算法が分かればよい。

「{ }」の扱い方が分かればよい。



教員から出された問いや最初に提示した新たな問題を解く中で、知識・技能を得る。

最後、振り返り活動を行う。その際に、項目を決めて取り組ませ、今後の授業で発展できそうな内容を考える。

【参考文献】

・今井むつみ(2024)「生成A I の時代の言語能力、読解力とその基盤となる資質能力」